

地地しくなるももういやだ、

三田 頁也

ぼくは、この地しんをたいけんし、本当に
心のこゝてります。そゝでは、地
しんのこゝを登まします。

ぼくがならいこゝをこゝたときのことです
とつぜん地鳴りがしとつぜんゆれだしました。
そしてひなしましました。だが「×キ×キ」と

言しました。その音を聞いた人は「こゝは
けんちくした家がくぢれたな」と言いました。
こゝは、一とどしづかになりまして一、二時

間後にお父さんがきました。こゝは長い所ま
てきてくおぼくは「ありがたうなまゝ」と思
いました。そしてひなまし二水がなん回かた

うろして今、地しんかそゝとこゝになくなりま
した。このしんをいごし、たこゝはかかど友
情くそして助けなりこのこゝは一生わすれま

せんし